



6月8日 さつまいもつる挿し (佐野農園)



5月17日 第2回ラーメンフェスタ (楽寿園)



6月2日 花壇コンクール表彰式 (市役所第1会議室)



6月7日 来園者2,100万人達成記念 (楽寿園)



5月18日 三島市・伊豆の国市による歴史・文化交流に関する協定締結式 (市長応接室)



6月7日 歯と口の健康まつり (生涯学習センター)



5月24日 国際交流フェア (商工会議所 TMO ホール)



6月10日 プール清掃 (北上小学校)



6月1日 バントマイム体験 (坂小学校)



5月24日 ダンススポーツ大会 (市民体育館)



5月24日 春のさつきまつり (楽寿園)

村を襲う水害 安久・杉山家文書

今回は、現在調査・整理中の安久・杉山家文書から、夏の水害に関する資料を紹介します。

三島市安久は中郷地区の中でももつとも南に位置する地区の一つで、江戸時代には安久村という一つの村を形成していました。また、地区の南側を大場川が流れていました。大場川は河川改修が進んだ現在と比べるとかなり蛇行しており、たびたび水害が発生していました。写真の資料は村に水害が起きた際にその被害状況を報告しているものです。これによると、文政十一年（一八二八）六月三十日、朝から東風があり洪水となりました。「東風」と、わざわざ風について触れていることから、強風であったのではないかと推測されます。この洪水により田んぼの七割ほどとすべての畑が水に浸かり、二日後の七月二日夕方まで水は引かなかったようです。



▲洪水の被害報告（文政十一年）

文政十一年（一八二八）六月三十日は旧暦（太陰太陽暦）による表示ですが、今日使われている太陽暦に直すと八月十日に当たります。この時期の強風を伴う大雨というので、これは台風によるものとされています。被害は静岡県中西部、長野県で特に大きく、天竜川や大井川流域では多数の死者を出しています。伊豆地方はこれらの地域ほどではなかったようですが、それでも安久村のように川沿いにある村では大きな被害がありました。

また、この時は六月二十日ごろから連日雨が降り続いており、そのことも被害が拡大した要因となりました。

この洪水で安久村では晩稲（収穫の時期の遅い稲）にはそれほど問題はありませんでしたが、すでに穂が出始めている早稲（生長の早い稲）や夏野菜に被害がでたということです。

この洪水に近い年代では文政八年（一八二五）と九年（一八二六）にも大雨があり、これらの際には用水や堰などの施設に損害が出ています。このとき村では領主に對して修復費用の助成を願っています。（助成が下りたかどうかは不明）

また、川が決壊して耕作ができなくなりました。田畑に對しては「川欠引」といって領主に納める年貢が軽減されることがありました。安久村の年貢割付状（毎年の年貢高が書かれたもの）にはよくこの記載を見ることが出来ます。このような資料からもこの地区が水害に悩まされ苦勞していたことを察することができます。

ご紹介した古文書は郷土資料館で調査・整理作業を進めています。作業を進める中で興味深い点が見つけられましたら後日紹介します。



三島の村名①
伊豆佐野村
（佐野・萩地区）
——道祖神——

伊豆佐野村（現在の佐野・萩地区）のうち、佐野地区には、村を守る石造りの神様、道祖神（サイノカミサン）が多数残されています。小正月の行事ドンド焼きは、かつては炎の中に道祖神を入れて清めるなど、本来、道祖神と関係のあるお祭りです。近年のドンド焼きは一月第二日曜日ごろ（本来は十四日）に行われています。この数日前から道祖神の周囲に正月飾りでやぐらを作って飾ります。また、道祖神がない地域では正月飾りを決められた場所に集めます。そのため、ドンド焼きは、地区内で数力所に分かれて行われ、今でも佐野地区では道祖神と密接に関連した独特の祭りとなっています。



▲正月飾りで飾られた道祖神